

## 根岸武香と利仁神社経塚

水口由紀子

### はじめに

埼玉県立文書館に寄託されている林家文書の中に東松山市利仁神社経塚<sup>(1)</sup>の発見の経緯と具体的な内容について記したものがある（林家文書7545）。それは、「野本村出土物を観る記」と題する、根岸武香直筆の草稿である。

これは、題名が異なるものの、内容から『考古界』第1篇第1号に掲載された「武藏大里郡野本村の発見物に就いて」の原稿であることがわかる。これによって、利仁神社経塚とその出土遺物はいち早く全国に紹介されることになった（根岸 1901）。

その資料は帝室博物館に入り、現在は東京国立博物館の所蔵資料となっている。

本稿では、その原稿を紹介するとともに、その特徴や意義についてまとめてみたい。

### 1 根岸武香の活動

本題に入る前に、根岸武香について紹介しておきたい。

根岸武香は天保10年（1839）5月5日に生まれ、明治35年（1902）12月3日に64歳で亡くなった。武藏国大里郡甲山村（現熊谷市）の豪農で、政治家、郷土史家、国学者、考古学者など多くの顔を持つ。

父友山は名主を務めたが、幕末は尊王攘夷派であった。邸内に私塾や剣術道場を開き、近郷の子弟に開放した。

武香の学術面での活動で有名なものは吉見百穴の調査支援と保存活動である。また、さまざまな資料や文書のコレクターでもあり、埴輪や土偶などの考古資料を所蔵し、『蒐古舎』という陳列室を甲山の自宅の一角に造った。

江戸後期から明治期にかけては古物愛好家たちが集まる「好古」の会が多くあり、盛んに活動していた。古いものを持ち寄り、品評し合った。その領域は古美術・歴史学・文学・科学、さまざまな分野を内包するものであった。

明治10年代に「東京人類学会」、「好古社」が創立され、遅れて明治29年に「集古会」が結成された。武香は集古会の会長に就いた時期もあった。また、古器物や文書などの膨大なコレクションを元に、「好古」の繋がりで埼玉と東京の交流をすすめるパイプ役でもあった。

そのようなことから、今回紹介する偶然発見された経塚を訪れる機会にも恵まれたのである。

武香所蔵の古文書、地誌・地図、古銭関係の書物、古印関係書などの多くは昭和6年（1931）に帝国図書館に寄贈され、現在は国立国会図書館で『冑山文庫』として所蔵されている。冑山文庫は近年、デジタル化が終了し、その価値が再評価されている（大沼 2012）。

## 2 根岸武香「野本村出土物を観る記」(写真1~12)

この草稿は豎帳の形態で、冑山文庫の専用の原稿用紙に筆で書かれている。ところどころ朱書きの訂正が入り、推敲した痕が見られる。

『考古界』と比較すると、概ね推敲後の原稿が活字化されている。双方を比較してみると、校正で直した箇所は意外と少ないと感じた。

本文は11頁あり、それに建久7年銘経筒拓本、墨書銘古鏡拓本、釘書銘古鏡拓本、刀子五口図の4つの拓本・図が付いている(写真10~13)。

原稿の中にも出土品の概略図(写真3・4)や出土地周辺の地図(写真6)、経筒等の出土位置(写真7)が丁寧に描かれている。

この他に拓本2枚(写真14・15)と概略図(写真16)が1枚残されており、これらは現地で採った拓本、現地で描かれた出土品の概略図と思われる。この概略図に描かれていない出土品もあるため、本来、概略図はこの他に数枚はあったものと思われる。この概略図を元に、帰宅後、図を改めて描きおこしたのであろう。

本文には明治34年3月11日に利仁神社の境内を春の祭りに先立つ整地作業中に経塚が発見されたこと、すぐに警察署から連絡が入ったが、東京の別宅(東京都文京区湯島)に滞在中であったため、現地に出向いたのは29日であったことが記されている。

武香は先ほども述べたとおり、明治35年(1902)で亡くなっているので、これを書いたのは亡くなる前年、63歳であった。

文中に、日が暮れた頃、冑山の自宅に帰ったとあるので、1日で資料調査を終えている。限られた時間の中で、採寸して概略図を描き、拓本を採り、銘文を読んでいる。また、付近も歩いて、経塚が占地する古墳の概略図も描いている。調査慣れしている様子が伺える(助手のような人間を同行していたのかは文面からは読み取れない)。

第2図左は武香が描いた古墳と経筒の位置図であるが、現在の古墳の測量図と比較するとかなり近似した形をしている。また、利仁神社の位置が双方で異なり、現在の社殿は明治期以降に建て替えられたことがわかる。

国立国会図書館に寄贈された冑山文庫の『骨董集』には埼玉県会議員の集会で訪れた寺の石灯籠の精緻な模写と拓本が納められおり、このことからも、模写や拓本の技術に長けていたことがわかる。

7頁の地形はフリーハンドで描かれているが、『考古界』の方では地籍図を元にした別な図を使用している。9頁の位置図も書き直されている。

その後、新編武藏風土記稿を引用し、古墳と利仁将軍に言及している。その中で、武香はこの経塚と利仁将軍は関係は無く、無量寿寺の境内で、眺望が良いという理由からここに経塚が築かれたのではないかと結論付けた。

そして、最後に、火災によって溶けてしまった無量寿寺の梵鐘の銘文をあげ、その中に登場する大施主のひとり「橋氏女」と経筒銘文中の「女施主橋氏」とが共通した氏族であることを指摘している。

## おわりに

埼玉県内で確認されている平安時代末から鎌倉時代初頭にかけての経塚は嵐山町平沢寺経塚、熊谷市妻沼経塚、朝霞市宮戸経塚・大山経塚などがあるが、いずれも偶然に発見されたものである。妻沼経塚を除くと出土状態はよくわからない。妻沼経塚は妻沼小学校の拡張工事中に発見されたが、小澤国平らの努力によって経筒の出土状態が記録として残された。経筒は穴を掘って直接埋めるのではなく、礫で造った小さな石室に入れる場合が多い。

この経塚の場合は武香が経筒を掘り出す場面で立ち会っていないので、残念ながら、埋納状況の記述がない。しかし、古墳の墳頂部に弧を描くように経筒が埋められていたことは確認できる。

この草稿を通して、根岸武香の行動力と観察力の鋭さを観ることができるのでないか。

## 【註】

(1) 根岸武香の『考古界』の論考ではこの経塚に固有の名称は付けていない(根岸 1901)。戦前は名称が一定せず、石田茂作は「武藏野本村経塚」(石田 1929~1930)という呼称を使用している。

戦後、昭和52年に奈良国立博物館で実施された特別展『経塚遺宝』の展示図録では「利仁神社境内経塚」、昭和63年に東京国立博物館で実施された特別展覧『経塚－関東とその周辺』では「利仁神社経塚」という呼称を使用した。本稿では東京国立博物館に倣って「利仁神社経塚」という呼称を使用する。

## 【引用・参考文献】

- 石田茂作 1929~1930 「考古学講座『経塚』」 雄山閣  
大里村教育委員会 2002 「特別展図録 根岸友山・根岸武香の軌跡」  
大沼宜規 2012 「ある好古家のコレクション 根岸武香と青山文庫」 国立国会図書館月報No.620  
埼玉県 1923 『埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告1』  
埼玉県立文書館編 1986 『林家文書目録』 埼玉県立文書館収蔵文書目録 第22集  
奈良国立博物館 1977 『特別展図録 経塚遺宝』  
根岸武香 1901 「武藏大里郡野本村の発見物に就いて」 考古界第1篇第1号  
根岸武香 1901 「野本村経筒発見の余報」 考古界第1篇第2号  
平野 恵 2005 「好古から考古へ－近世から近代へ継承された学問の形態－」 Ouroboros東京大学総合研究博物館ニュース volume9 Number3  
水口由紀子 2010 「東松山市利仁神社経塚出土遺物について」 埼玉県立歴史と民俗の博物館『紀要』第3号  
宮瀧交二 2004 「大里町冴山・根岸家の『菟古舎』について」 埼玉県立博物館『紀要』29号

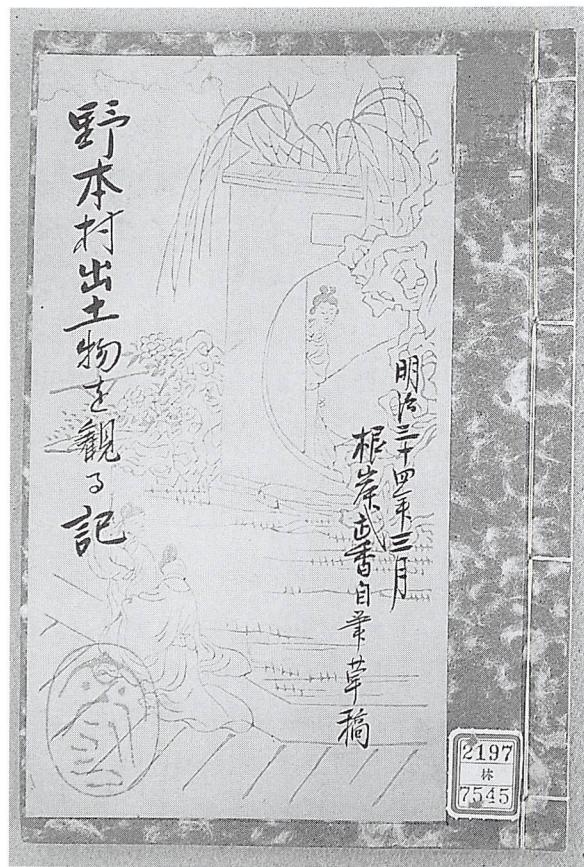


写真1 野本村出土物を観る記（表紙）

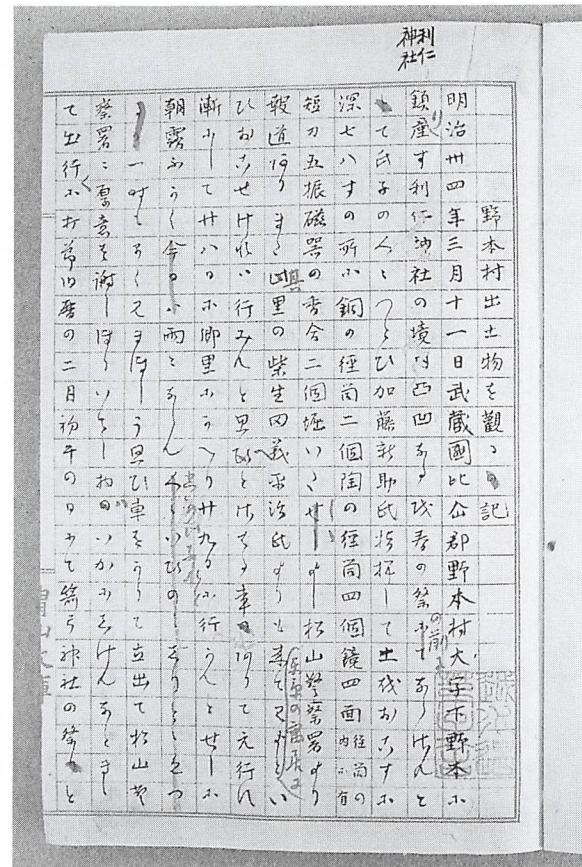


写真2 野本村出土物を観る記（1頁）

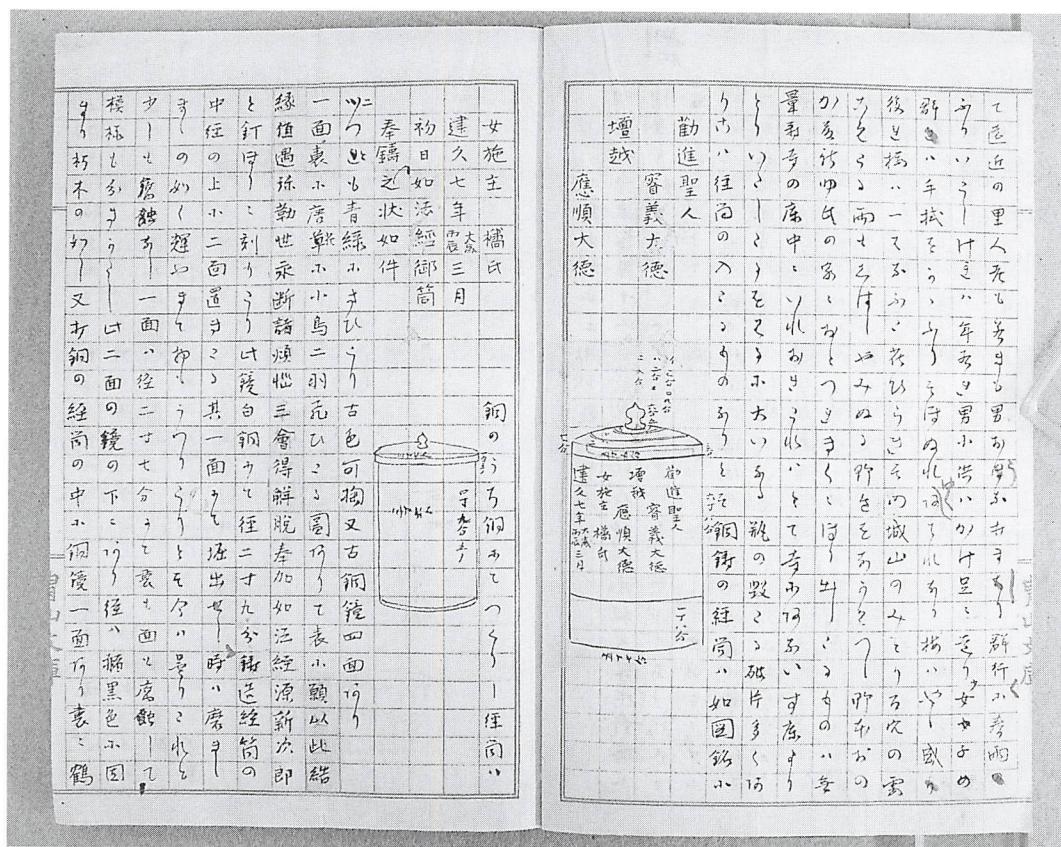


写真3 野本村出土物を観る記（2～3頁）

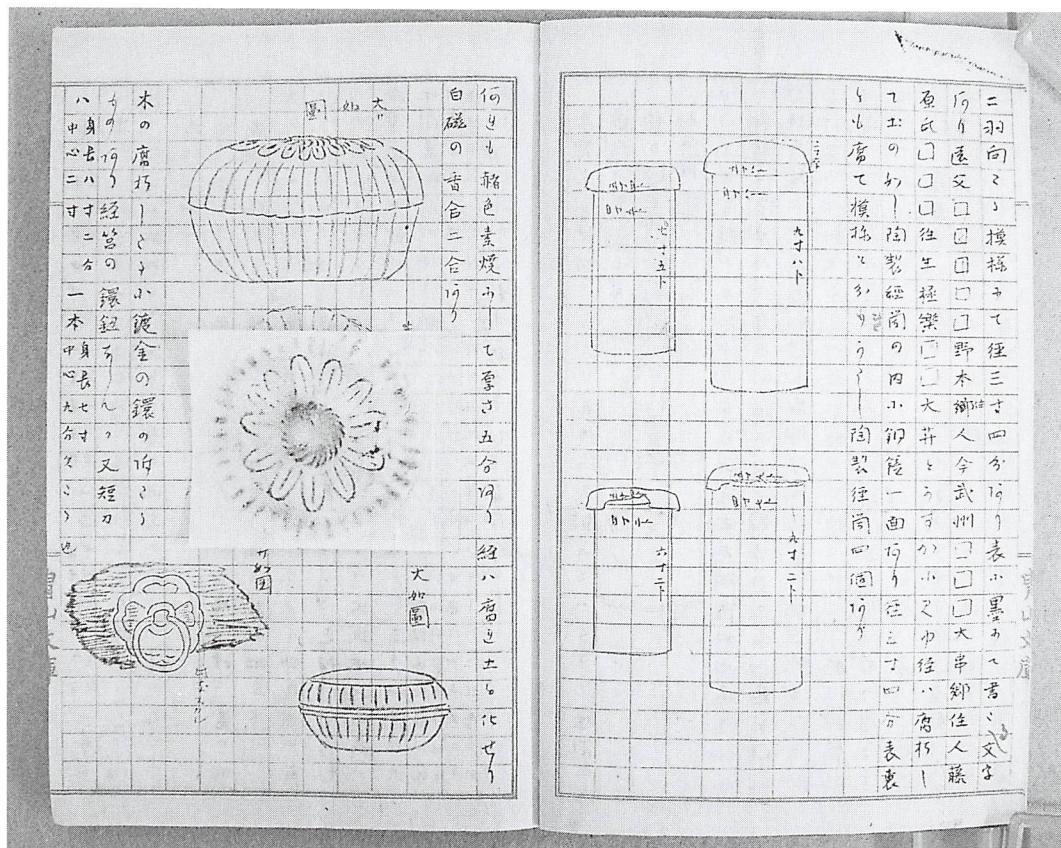


写真4 野本村出土物を観る記（4～5頁）

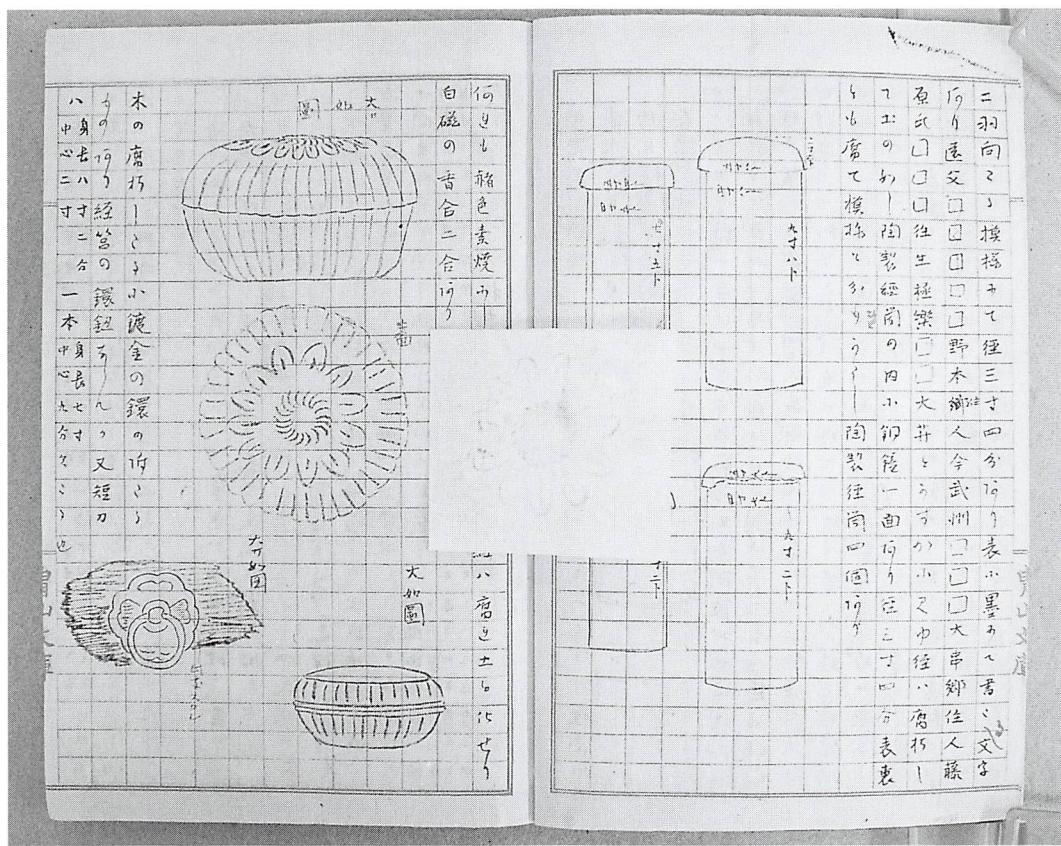


写真5 野本村出土物を観る記（4～5頁）

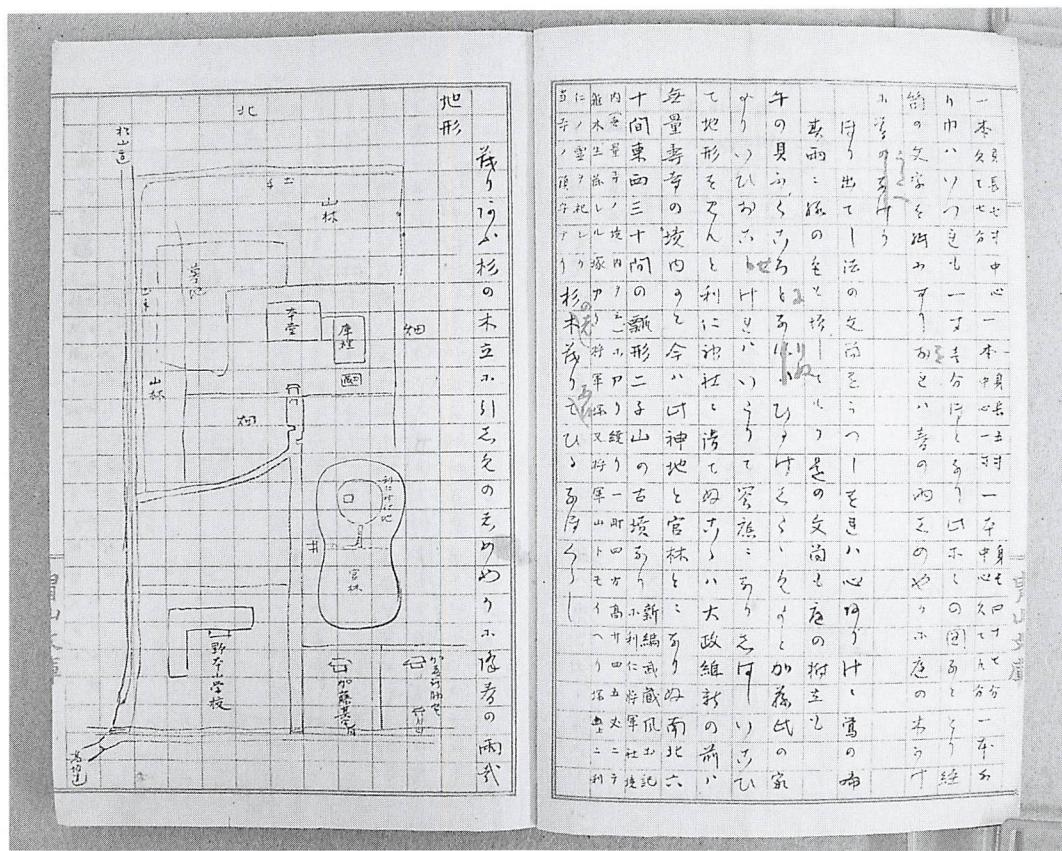


写真6 野本村出土物を観る記（6～7頁）

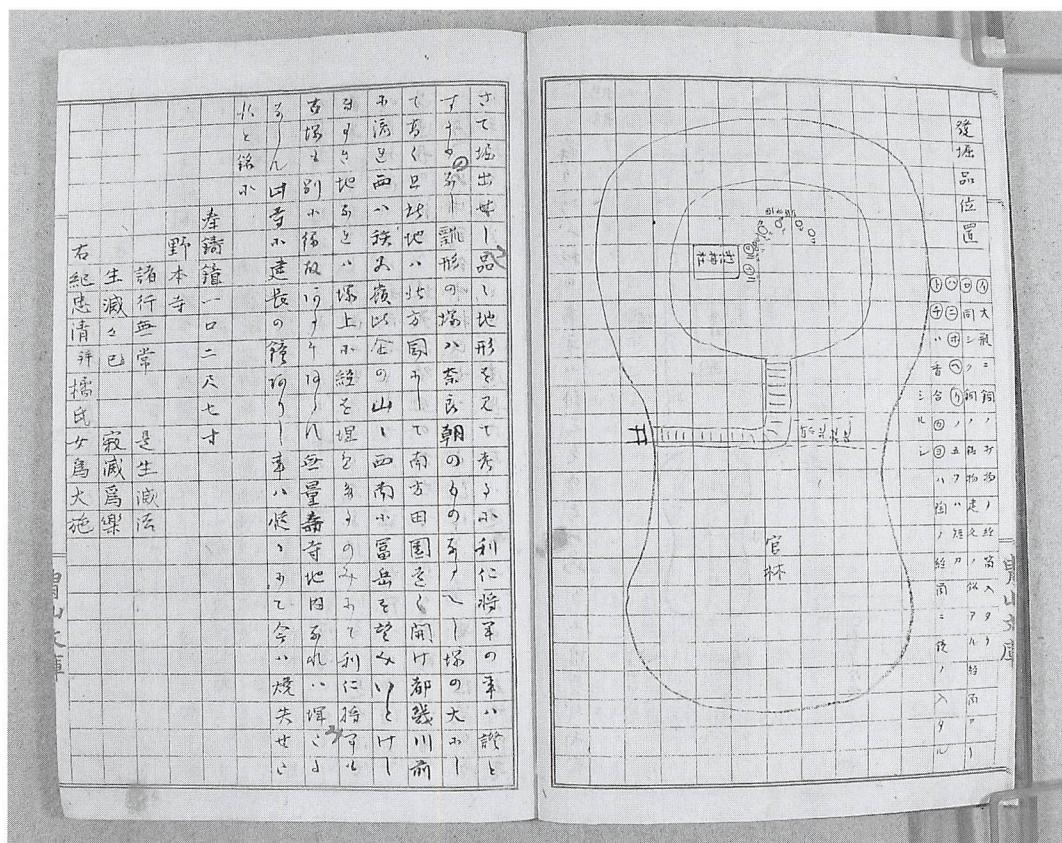
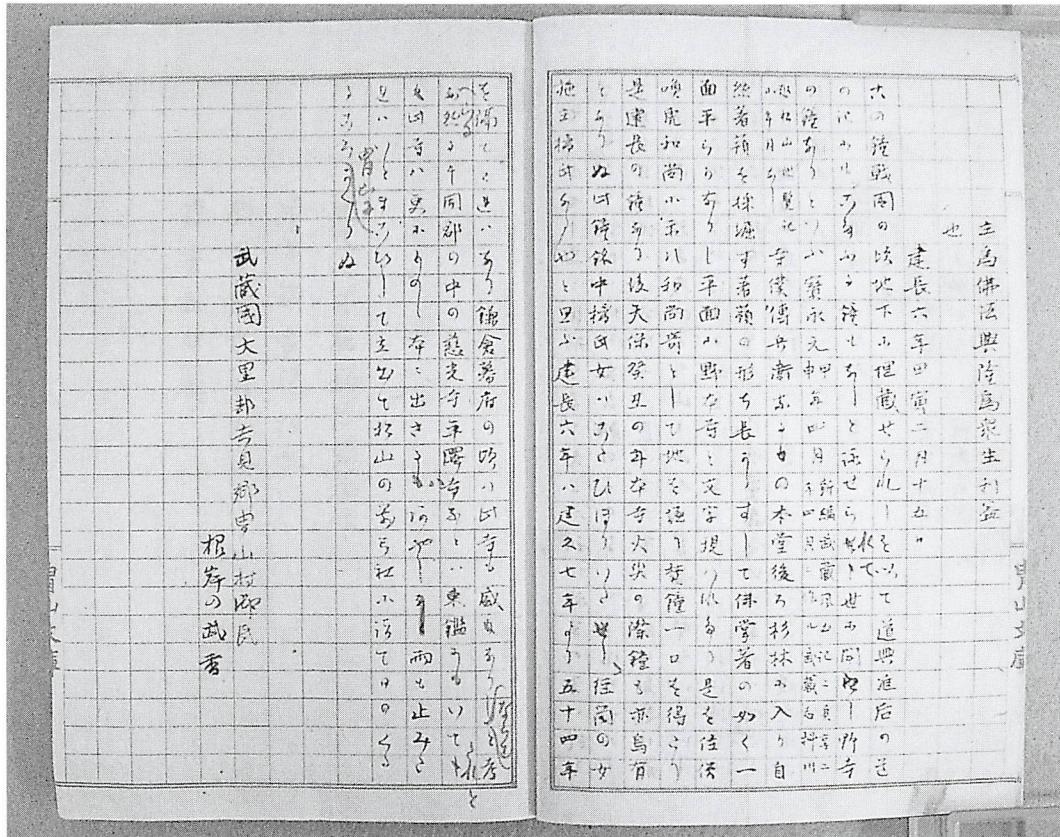
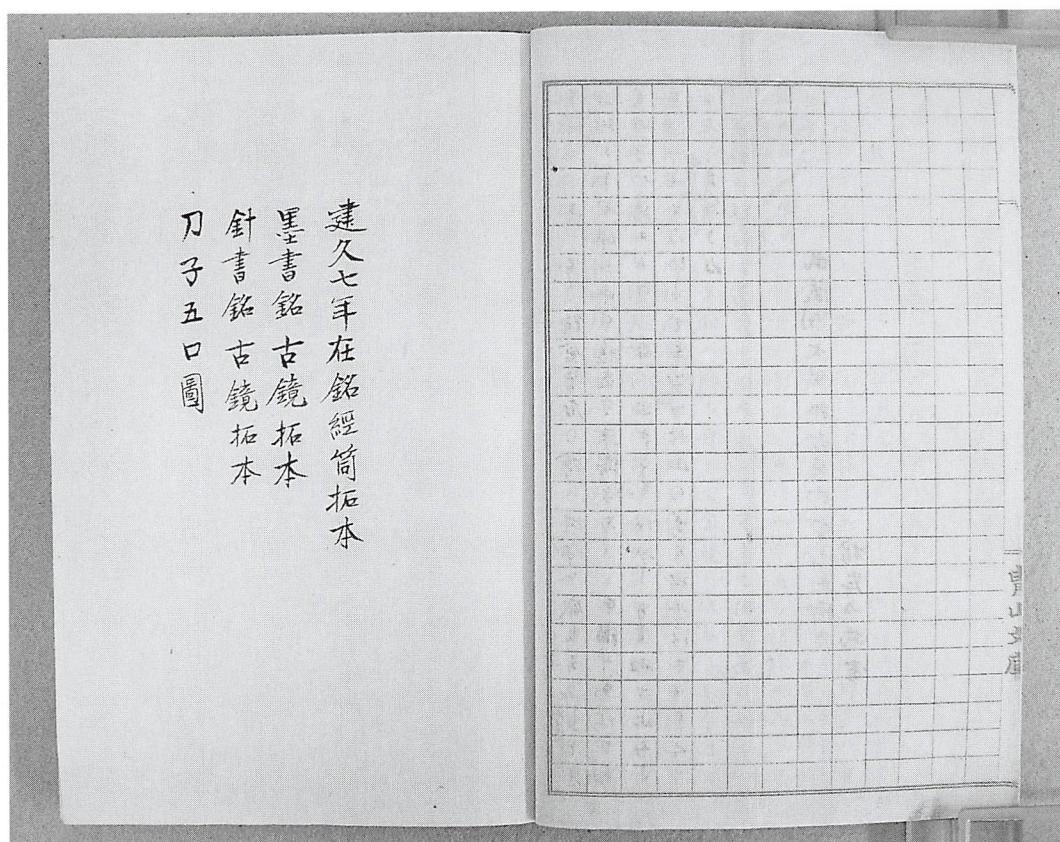


写真7 野本村出土物を観る記（8～9頁）



## 写真8 野本村出土物を観る記（10～11頁）



### 写真9 野本村出土物を観る記（12～13頁）

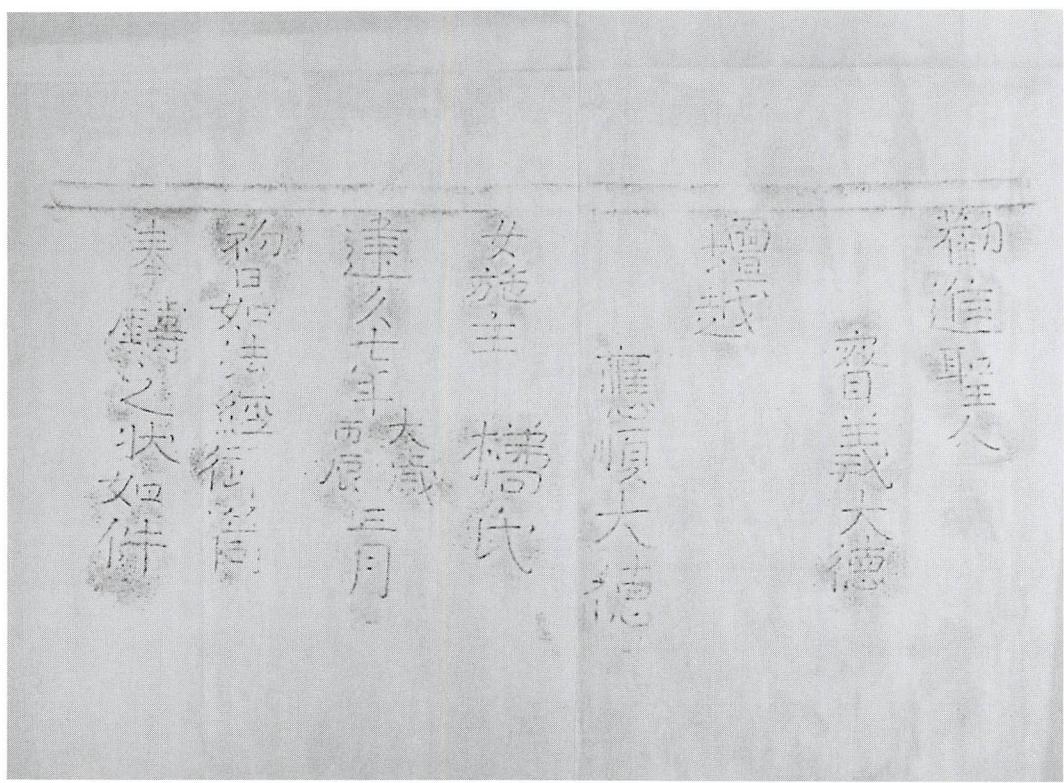


写真10 野本村出土物を観る記（拓本1）

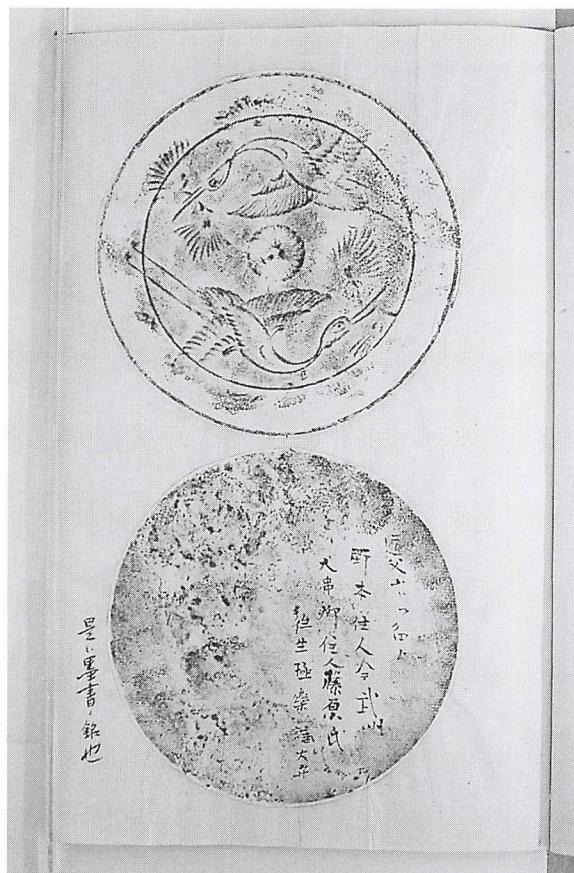


写真11 野本村出土物を観る記（拓本2）

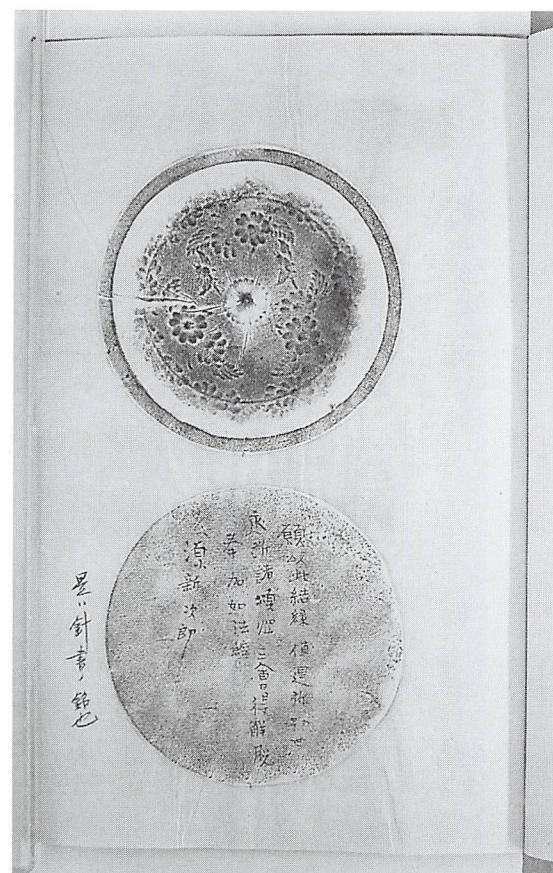


写真12 野本村出土物を観る記（拓本3）

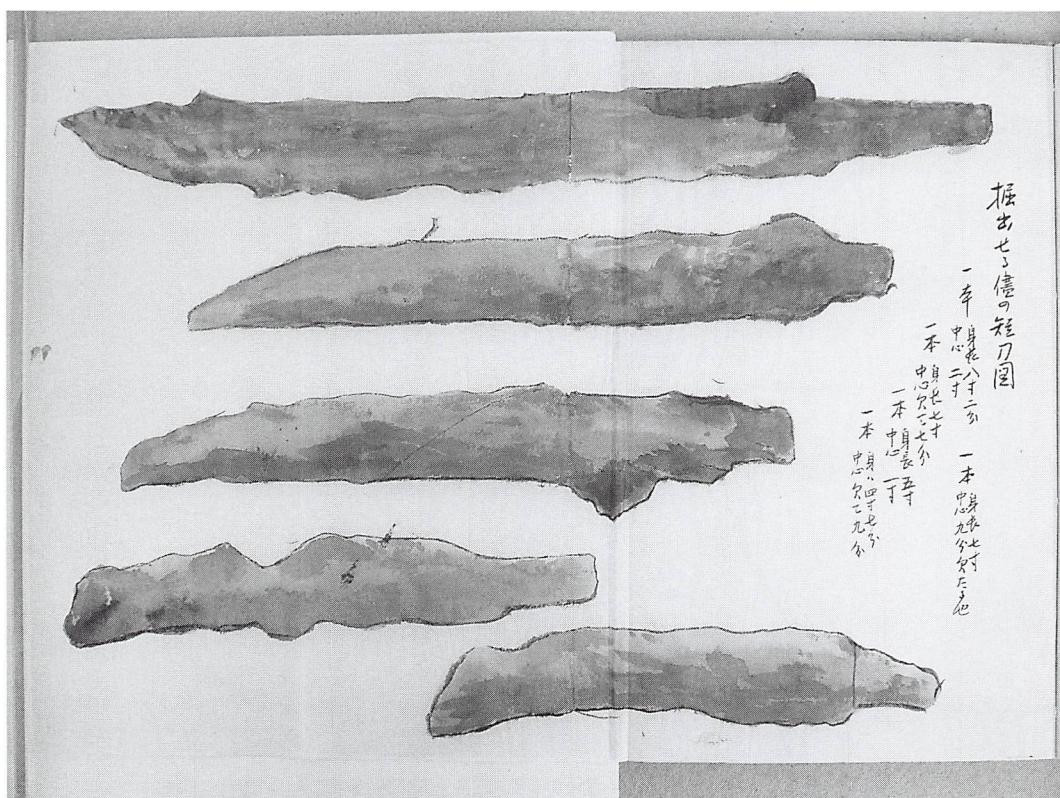


写真13 野本村出土物を観る記（図）



写真14 野本村出土物を観る記（別添え拓本・図）

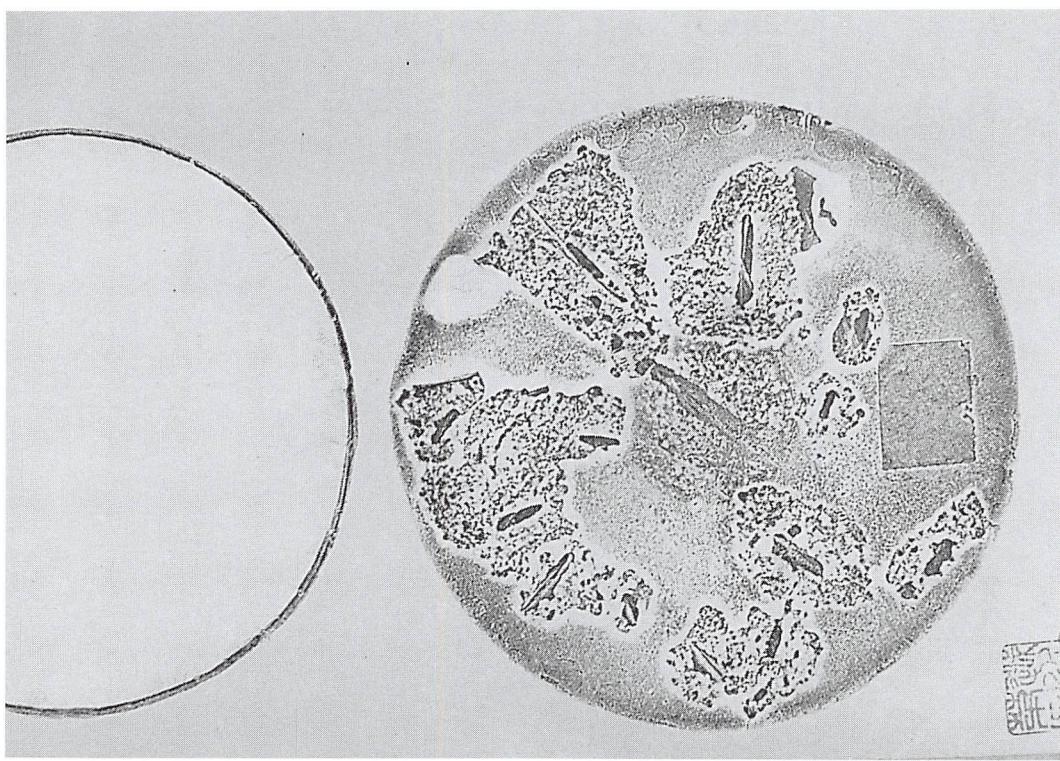


写真15 野本村出土物を観る記（別添え拓本・図）

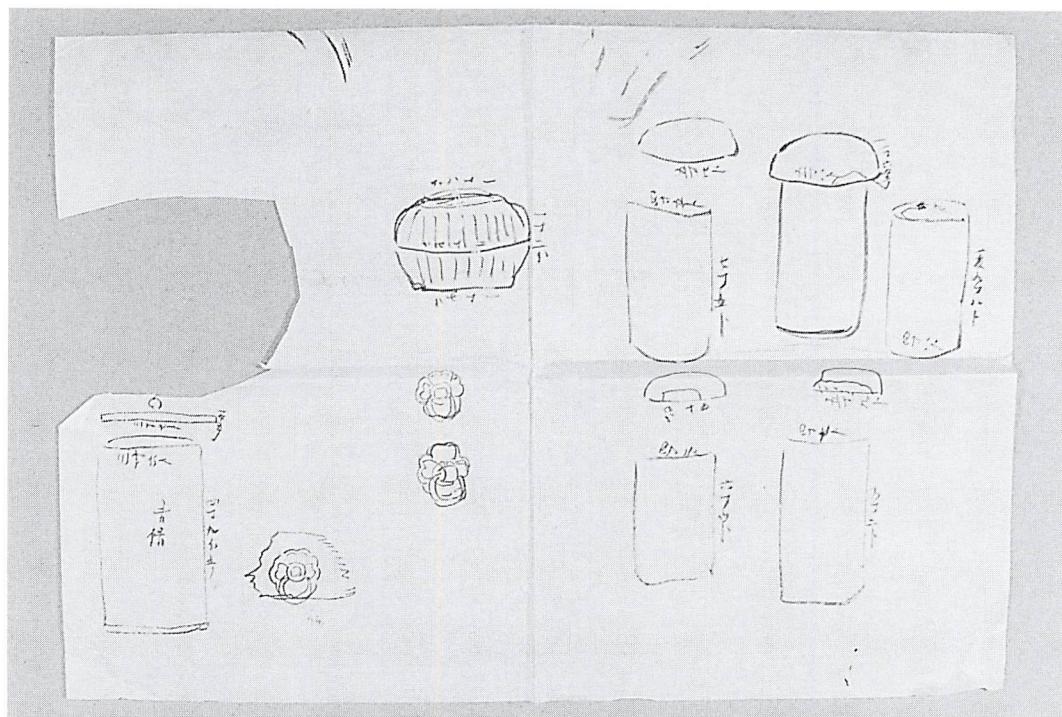
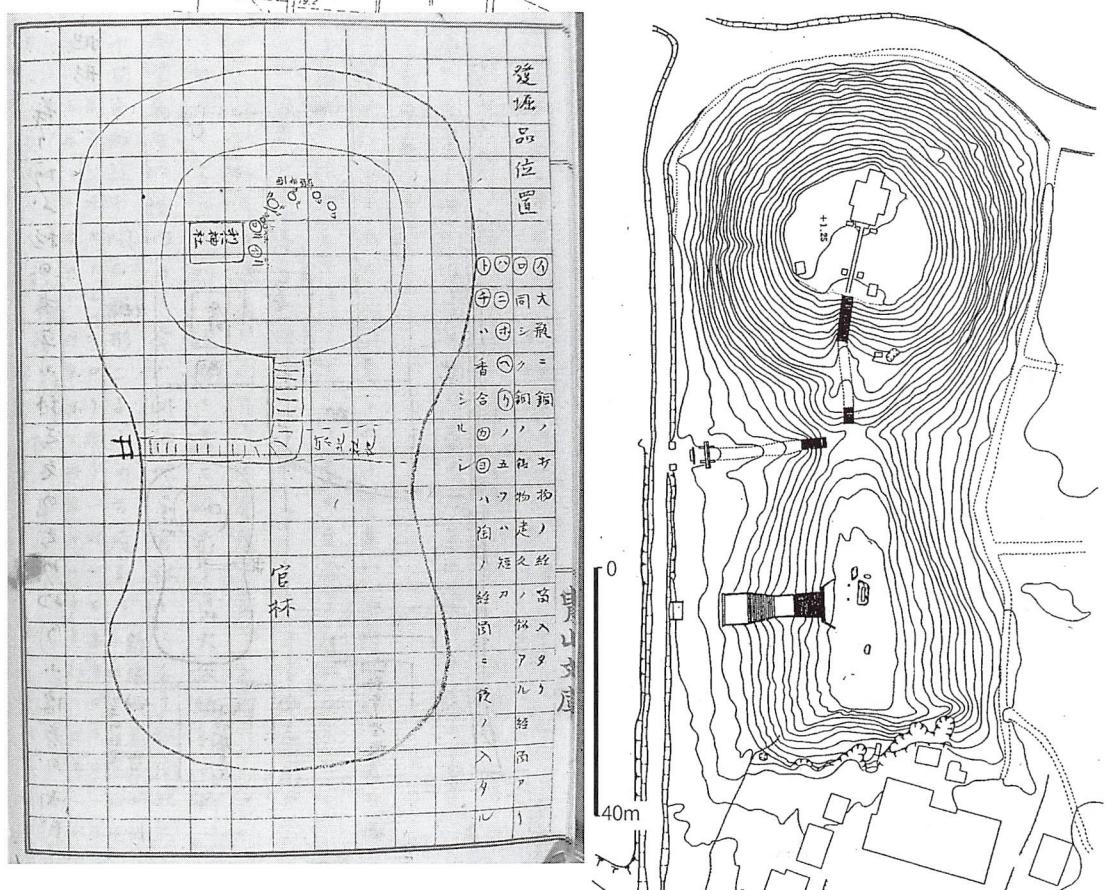
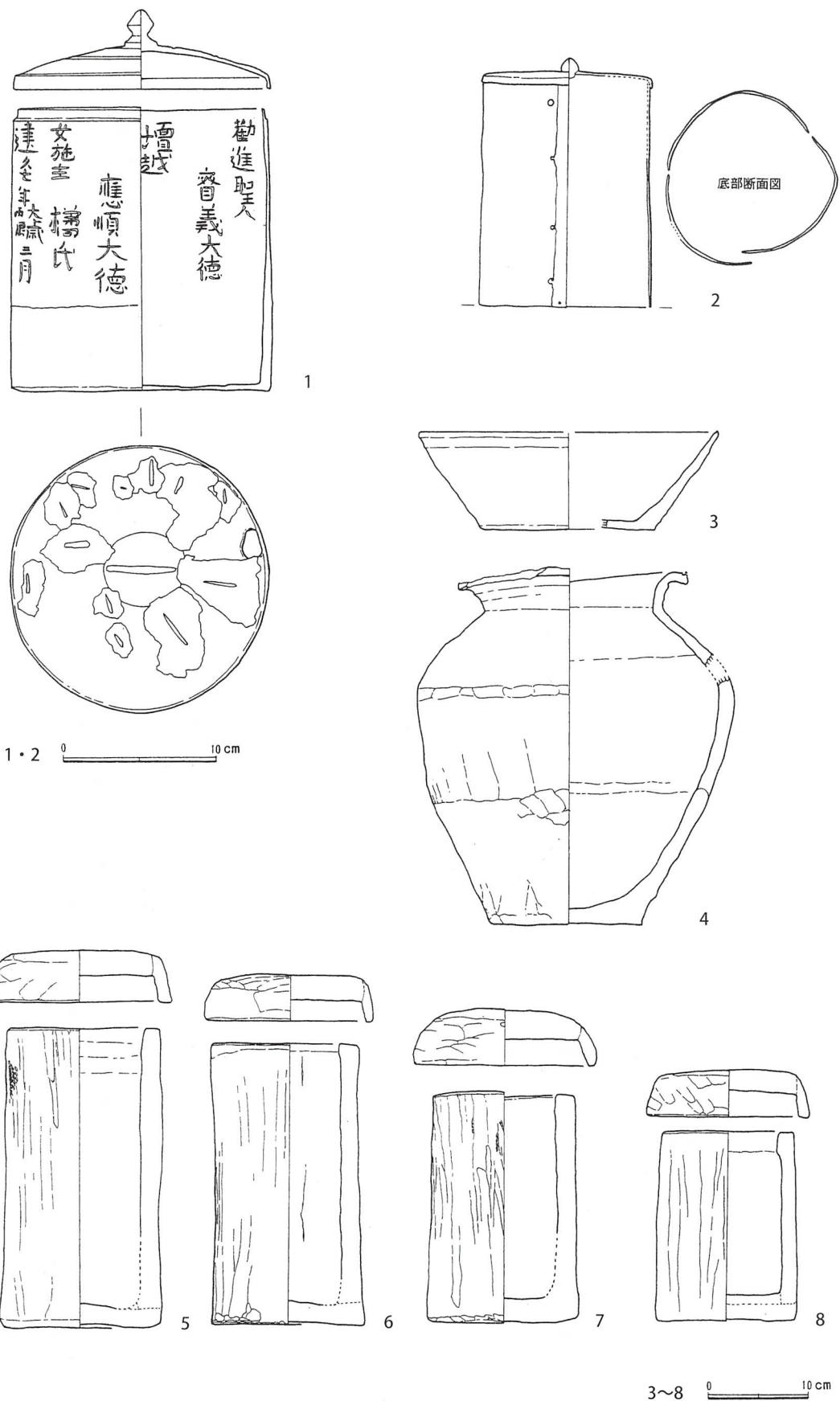


写真16 野本村出土物を観る記（別添え図）



第2図 経筒等の出土位置（左：根岸武香原図、右：現代の測量図 / 金井塚 1979）



第3図 参考資料：利仁神社経塚出土遺物実測図（水口 2010）